



# 東泉丘小学校だより



令和7年（2025年）10月10日発行

## 6年生 令和7年度 全国学力・学習状況調査（国） すくすくウォッチ（府）の結果概要

4月に実施されました令和7年度全国学力・学習状況調査、すくすくウォッチについて、6年生の結果を報告します。※個票の返却は、来週の予定です。

本校の平均正答率（%）と	豊中市平均との差	大阪府（公立）平均との差	全国（公立）平均との差
国語（国調整）	+5ポイント	+8ポイント	+6.2ポイント
算数（国調査）	+3ポイント	+7ポイント	+7.0ポイント
理科（国調査）	+7ポイント	+9ポイント	+6.9ポイント
わくわく問題（府すくすく）	+6.8ポイント	+8.9ポイント	

国語、算数、理科、わくわく問題のいずれにおいても、豊中市、大阪府、全国の公立学校の平均正答率を上回る結果でした。今後、この調査の詳細な分析に基づき、さらなる学力向上に向けた指導の充実を図ってまいります。

### わくわく問題より（府すくすく）

府の平均でも同様の傾向にあることですが、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の中に含まれる情報を関連付けて正しくとらえ、新たな課題を考えることにおいて、更に充実が必要であると考えます。



### 児童質問紙より（国調査）

本校児童の学習状況および生活習慣に関する6年生が回答した質問紙の結果を紹介します。

#### 【学習への意欲と時間】

平日における学校の授業時間以外の勉強時間が、大阪府や全国平均と比べて長い傾向が見られます。具体的には、「60分以上」勉強している児童の割合が、大阪府平均や全国平均を大きく上回っています。

また「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問の肯定的回答も平均より高く、「将来の夢や目標を持っている」児童の割合も平均よりやや高い結果でした。

#### 【基本的な生活習慣】

毎日朝食を食べている児童の割合や、毎日ほぼ同じ時刻に起きている児童の割合が、大阪府平均や全国平均を上回っており、基本的な生活リズムの維持ができています。

起床時刻の安定性は高いですが、毎日ほぼ同じ時刻に寝ている児童の割合になると下がりますので、規則正しい就寝時刻も大切です。

#### 【ICT 活用への積極性】

ICT 機器を学習に活用する能力に関する自己評価が高まっています。特に、画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かることや、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができることは、全国平均を上回っています。

自分のペースで理解しながら学習を進める、友達と協力しながら学習を進めることができるという点では、全国平均並みです。ICT を活用した共同的な学習や、意見発信の機会を増やし、学びの深化を図ることが大切です。



### 【人間関係と安心感】

友達関係に満足している児童の割合が高く、困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている児童の割合や先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童の割合も平均より高いです。先生と児童との信頼関係が高い状態を維持し、安心して相談できる環境を継続することが大切です。

### 【読書・教科への意識】

読書が好きな児童の割合が平均より高いです。また、国語の勉強が得意だと感じている児童、算数の勉強が得意だと感じている児童の割合も平均より高いです。

読書習慣を継続させるとともに、読書で培った表現力や語彙力を、自分の考えを発表する活動や論理的な記述へ結びつけられることが大切です。

### 【社会性・規範意識】

人が困っている時に、進んで助けたいと感じている児童の割合は、全国平均と比較してわずかに低い水準にあります。また、いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている児童の割合は、ほぼ100%ですが、完全に100%になって欲しいところです。

## 児童アンケートより（府すくすく）

### 【精神面・対人関係】

「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という質問に対し、「あてはまる」と回答した児童の割合は、大阪府平均を大きく上回っています。

「自分にはよいところがある」と思う児童の割合も高く、肯定的回答の合計は90%を超えています。

### 【協調性と傾聴の姿勢】

「友だちと協力するのは楽しい」という項目と「話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている」という項目は、肯定的回答は95%を超え、高水準です。

また「学級会の話し合いでは、少数意見も大切にしている」という項目も、高い結果でした。

### 【生活環境に関して】

「家の中にホッとできる場所がある」という項目は、肯定的回答は90%を超えています。

### 【学習活動と探究に関して】

「授業で学んだことを、ふだんの生活にいかすようにしている」という質問に対し、肯定的な回答は、大阪府平均を下回っています。

また「予期しない出来事が起きたとき、原因がわかるまで調べる」とについても、肯定的な回答は、大阪府平均よりやや低い結果でした。

探究型学習や教科横断型の授業、「問いを立てる力」の育成、ICT活用による情報収集スキルの向上、間違いの原因を探る姿勢が称賛される風土づくりなどが大切です。

また、生活課題を教材化し授業を行うなど、学びを実社会に結びつける機会を充実させる必要があります。今日の学びは、生活でどう使えるか、どう活用されているかを振り返る機会も大切です。



### 【感情表現に関する課題】

「自分によりよいことがあったとき、その気持ちを態度に出さない」という項目は、大阪府平均と比較して「あてはまる」がわずかに低かったです。

※次号(10/14 予定)は、5年生のすくすくウォッチ(府)の結果をお知らせします。